

# PPIカリキュラム第1版

	目標 (アウトカム)	能力・資質 (コンピテンシー)	Level 1	Level 2	キーワード・関連用語	備考	
			知っている。 双方向性の講義に参加できる。	模擬的または事例検討等を通してどう行おうかを考えることができる。研究者の支援を受けながら研究の一部に参画することができる。			
参画・チーム	患者・市民ががん医療に参画することの意義を理解し、コミュニケーションスキルを活用して研究チームや会議体と良好な関係を築き、役割を果たす	患者・市民参画の意義を理解し、研究・医療の場で役割を果たせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“がん”に関する社会的課題を概説できる</li> <li>・患者・市民参画について概説できる</li> <li>・参画と参加・協力の違いを述べることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益的役割を模擬的に実践できる</li> <li>・患者・市民参画事例、模擬事例を通して、患者・市民における視点の必要性や役割について議論できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（社会的問題）民間療法、宗教の問題、ライフステージにおける課題、薬害、ドラッグラグ、デバイスラグ</li> <li>・患者・市民参画（参画、エンゲージメント、参加）、PPI、PPIE</li> </ul>	<p>手引き：先にある望ましい目標としての育成人物像と、各市民は実現可能な少し先を目指すことが第1歩であることの説明を入れる。</p> <p>Webプログラム：がん医療の社会的課題の歴史、海外との対比を含め、現在の課題までのものを1本入れる</p> <p>対面研修：・研究が不足している領域や課題について気づきを得て、説明できることを先の大きな目標として目指すことを手引きに記載</p>	
		チーム内での役割を意識し、建設的な意見交換ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームアプローチには、ビジョン（目標）とチーム全体や構成するメンバーのミッション（役割、使命）を意識することが大切であることを概説できる</li> <li>・がん医療やがん研究において、チームを構成する人々とその役割について概説できる</li> <li>・チームの一員として守りたい事柄を挙げることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる背景をもった人々（チーム構成員）とともに、目標を達成するために力を合わせて役割を果たすことができる</li> <li>・チームの一員として守りたい事柄を実践できる</li> <li>・事前に資料を読み、意見を準備しておくことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームビルディング、チームアプローチ、多職種連携、ビジョン（目標）、ミッション（役割）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の検討課題を理解し、時間内に議論を終えることができるよう共働できる</li> </ul>
		コミュニケーション・スキルを活用し、議論に参加できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション・スキルの基本を説明できる</li> <li>・批判的吟味の意味と配慮について、例を挙げることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション・スキルを活用し、様々な場面を通して、他者を尊重し、自らの意見をわかりやすく、積極的に述べることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサーション、反復、開かれた質問・閉じた質問、要約、ノンバーバルコミュニケーション、批判的吟味</li> </ul>		
倫理・法規	医療倫理と利益相反、法規の基本的な事項について、理解し、実践できる	医療倫理・研究倫理の基本的な事項を活用し、患者が参画することの意義を説明することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理・研究倫理・インフォームドコンセントの要点を列挙できる</li> <li>・被検者（臨床）や動物（基礎）の保護、被検者の利益、不利益について要点を列挙できる</li> <li>・意見の衝突への対応は医療安全につながることを、要約できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん研究の過去事例、模擬事例を通して、どのように適応されているか、問題（研究不正含む）にはどのようなことがあるか、列挙することができる</li> <li>・基本的な事項を踏まえて議論できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療倫理、研究倫理（「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等）、インフォームドコンセント、意見の衝突（コンフリクト）、医療安全、研究不正、出版倫理</li> </ul>	<p>手引き：事例の例</p>	
		利益相反、個人情報の基本的な事項を活用し、患者が参画することの意義を説明することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利益相反、個人情報の基本的な事項について要点を列挙できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん研究の過去事例、模擬事例を通して、どのように適応されているか、問題点は何か、挙げるができる</li> <li>・基本的な事項を踏まえて議論できる</li> </ul>			
		以下の関連法規・制度等を課題に適応させ、活用できる (がん対策基本法、薬機法、がん登録推進法、健康保険法（診療報酬、保険適応内外）、介護保険法、臨床研究法、倫理指針、健康増進法、労働安全衛生法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の法規について、自分で調べる方法を述べるができる</li> <li>・法規の策定に至った簡単な背景、法規の要点を聞き、要約できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療を取り巻く事例を通してどのように適応されているか例を挙げる、問題点を挙げるができる</li> <li>・基本的な事項を踏まえて議論できる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>利益相反、個人情報保護法 (・研究事例におけるバイアスを挙げ、指摘することの患者・市民の役割を説明できるを意味するものを入れる。手引書に記述する)</li> <li>がん対策基本法、薬機法、薬事法、がん登録法、健康保険法（診療報酬、保険適応内外）、介護保険法、個人情報保護法、臨床研究法、健康増進法</li> </ul>
腫瘍学・社会医学	入門的な腫瘍学や社会医学について自ら必要な学習計画を立てて学び、その知識を研究事例に適応させることができる	腫瘍学の基礎から発展的な知識を活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用語集、WebラーニングやWebサイト、図書等を用いて腫瘍学・社会医学について、自ら学習計画を立て実行できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された講義の受講や情報源の活用で得られた知識を活用し、がん医療の特定の領域における課題について、議論や提案ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(がん診断からがん治療全体の流れ。日本癌治療学会「大人のがん講座」を活用する <a href="http://www.jSCO.or.jp/jpn/index/page/id/2246">http://www.jSCO.or.jp/jpn/index/page/id/2246</a>)</li> </ul>	<p>手引き：腫瘍学や社会医学の知識を活用して、模擬的あるいは事例検討の場で、議論や提案ができることを促すこと</p>	
		社会医学の基礎から発展的な知識を活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍学：大人のがん講座を受講し、要点を述べるができる</li> <li>・社会医学：Webラーニングで受講し、要点を述べることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会事例を用いて、がんとお金、健康とお金の検討は社会的課題解決に関連することを概説できる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>健康定義、健康寿命、Well being、QOL、予防、検診等</li> <li>がんとお金、健康とお金、financial toxicity（経済毒性）、健康格差、社会剥奪指致</li> </ul>

研究	がん研究の目的から成果の活用まで基本的な一連の過程を把握しその一部に参画できる	医療の質の向上に研究が必要であることを、説明できる	・研究の目的を理解し、議論に参加する準備ができる ・研究の種類（基礎、臨床、社会医学等）について列挙できる	・医療の質の向上に研究が必要であることを踏まえ、議論に参加できる	基礎研究、臨床研究、社会医学的研究	手引き： 望ましい目標として、研究が不足している領域や課題について気づきを得られること、研究が一部の利益誘導に繋がる可能性があるか注意を払うことができること ・アウトラインの例 ① 研究テーマ（目的） ② 研究の意義（背景） ③ 研究デザイン（研究期間・研究タイプ） ④ 対象（個人・集団）（選択基準、除外基準・サンプリング法） ⑤ 変数（予測因子・アウトカム） ⑥ 帰結（発症・死亡・QOL・環境条件） ⑦ 統計的事項（サンプルサイズ・解析法） ⑧ 倫理的配慮 ⑨ 文献
		研究を遂行するための研究構造（アウトライン）を理解し、研究計画を説明できる	・研究計画書、研究倫理委員会審査、研究費獲得、文献レビューについて用語を調べることができる	・研究の構造（アウトライン）、研究計画を踏まえて、研究事例や研究計画書から目的を抽出し、そのゴールについて議論できる。研究チームの構成について説明できる ・模擬的な研究計画書を用いて議論ができる	研究計画書、研究倫理委員会審査、PICO、PECO	
		研究の目的、方法、デザインについて、質問できる	・代表的な研究方法、デザインの代表的なものを列挙できる	・研究論文や研究事例がどのような研究方法、デザインを用いているか、抽出し、疑問に感じたことを質問できる	〇介入研究（ランダム化、非ランダム化比較試験）〇観察研究（分析的（縦断研究（コホート研究、症例対照（ケースコントロール）研究）、〇横断研究）、記述研究、生態学的研究）〇質的研究（インタビュー）フォーカスグループインタビュー） 〇量的研究 〇データマイニング、データリソース（全国がん登録、診療報酬データ、DPCデータなど）、データクレンジング、データベース構築、バイアス、統計解析	
		研究結果の取り扱いについて説明できる	・関連する用語について調べることができる	・研究結果の取り扱いと監査が必要であることを概説できる		
		研究成果の公表と活用（学会発表、論文・報告書、社会への公表、啓発）について説明することができる	・成果公表の方法を列挙できる  ・学会発表の種類、抄録、査読、医学論文の種類と構造に関する用語を調べることができる ・学会発表、論文における倫理的配慮について、記載すべき要点と配慮について、列挙することができる	・過去の事例や模擬事例において研究成果がどのように活用されているか概説できる ・事例を用いて、成果を社会に広げるための方略を議論できる  ・学会発表の種類と抄録および研究論文の種類と構造（背景、方法、結果、考察）、査読について学び、論文等を用いて結果の普及・啓発について議論できる ・啓発時に留意すべき法規等を列挙できる ・模擬または実際にいずれかの方法で、倫理的配慮を含め、実践できる （例 学会の患者支援プログラムでポスター発表する）	抄録、査読、シンポジウム、ワークショップ、原著、症例報告、レター、総説 著作権、肖像権、二次利用	
		基礎研究、臨床研究、社会医学的研究（疫学研究を含む）のいずれかの研究に参画することができる	基礎研究、臨床研究、社会医学的研究から1つ以上選択し、研修を受講完了することができる			
EBM	EBMやガイドラインがどのように研究などの意思決定に活用されているか述べることができる	がん研究で得られた科学的根拠がどのように意思決定（治療などの方針）に用いられるか説明できる	EBMIについて概説を聞き、要約できる	・推奨のレベルはどのように決められているか要約することができる ・EBMはどのような場面の意思決定（治療などの方針）に用いられるか例を挙げることができる ・意思決定や社会的決断にEBMが用いられた事例を通して議論できる	エビデンスレベル、普遍性、再現性、バイアス（再掲）、推奨の強弱、	
		ガイドラインについて説明できる	・ガイドラインの目的、構造を概説できる ・ガイドライン策定過程に患者が入ることの意義を理解し、説明できる ・ガイドラインを臨床事例に適用させるプロセスを説明できる	・代表的なデータベースを用いて検索を体験する ・ガイドラインを用いた模擬臨床事例（患者背景、診療環境など含む）の治療を決定等を体験し、議論できる	ガイドライン、データベース（Pubmed等 代表的な物を列挙）	
		情報リテラシー（読み解く力）の重要性を説明できる	情報の確実性を高める方法を列挙できる	・インターネットや図書からより確実な医療情報を得ることができる ・がん医療の社会的問題について列挙できる	eヘルス倫理コード、HONcode（*）	
疫学・統計	疫学・医療統計がどのようにがん研究などに適応されているか述べることができる	医療（保健含む）統計が、研究や公開された文章にどのように用いられるか例を挙げることができる	・統計指標の意味を理解し、データ解析に関する統計手法の用語を列挙し、調べることができる ・統計の誤りの代表的な例を要約することができる	・データ解析や統計手法がどのように結果を導き出していくかを体験し、議論することができる。 ・研究論文や行政報告書などにおいて、用いられている手法を抽出できる	・統計指標（率、比、割合の違い）、尺度、分布（欠損値）、正規分布、多変量解析、相関分析、平均値、統計学的有意差、有病・有病率、リスク比、罹患率、主なバイアス・交絡因子の例示、オッズ比、サンプルサイズ、交絡、ランダム化 ・研究デザインとエビデンスレベル（観察研究/介入研究、生態学的研究～メタアナリシス）、統計指標（死亡数・率、罹患数・数、年齢調整率、生存率、生存期間）、バイアスと交絡（選択バイアス、情報バイアス、交絡と制御方法）、変数の種類と集計方法（連続変数/カテゴリ変数、平均値/中央値）、統計学的検定（分布、有意水準、サンプルサイズ）	社会の中で活用される医療統計を目指す。（次のステップは選択必修のプログラムの中で、さらに高度なことは選択コースを設置することを検討する。）